

西巖殿寺と文化財(2)

委員 渡邊 昭義

西巖殿寺(「みんなで護ろう文化財」第4号本誌18年11月号参照)には、その歴史を物語るように多くの文化財があります。20号では国指定の2件を紹介しましたが、今回は県指定の仏像を紹介します。

山上本堂の仏像(県指定重要文化財)

年代 平安時代後期～室町時代・江戸時代

明治4年(1871)に山上にあった本堂が現在の西巖殿寺に移された後、明治23年(1890)に旧本堂の西側に再興されたのが今の山上本堂になります。

山上本堂には木造十一面観音立像(本尊)・木造不動明王立像(脇侍)・木造毘沙門天立像(脇侍)・木造十一面観音立像(前立)の4軀の仏像が安置されています。

中でも本尊の十一面観音立像は、その特徴から平安時代後期(約900年程前)の作とされ、健甞建命の本地仏(神の本来の姿)として最も古い例であると考えられています。また、現在は本尊を中央に不動明王像と毘沙門天像を左右に配置した天台宗の三尊形式ですが、それぞれの製作時期が異なっています。おそらく中世(鎌倉～室町時代)に比叡山延暦寺などの例にならって三尊とされたものであると考えられています。

長年、亜硫酸ガスや火山灰にさらされてきたこと等から損傷が著しかったため、前立を除く3軀の仏像は平成11年に保存修理が行われています。

僧房の仏像(県指定重要文化財)

年代 鎌倉～南北朝時代

西巖殿寺の僧房(僧が執務を行ったり生活する建物)は、麓坊中時代の棟梁寺六坊の一つであった旧学頭坊舎跡に建てられています。三十七の各旧坊は坊職名と坊舎名を兼ねており、中でも学頭坊は阿蘇一山という僧組織において主要行事を主催する中心的役割を担っていました。そのため、麓坊中という寺の集合体から阿蘇山西巖殿寺となった際に僧房となつたと考えられます。



木造十一面観音立像
像高 151.6cm
楠寄木造
平安時代後期



木造毘沙門天立像
像高 134.0cm
桧一木造
鎌倉時代以降



木造不動明王立像
像高 126.5cm
桧一木造
鎌倉時代以降



木造十一面観音立像
像高 109.0cm
楠一木造
江戸時代

* 現在右の4軀は一時的に熊本県立美術館に収蔵されています。



通学路安全確保ボランティア 協力員を募集します！

教育委員会では、児童・生徒の登下校時の安全を確保するため、“通学路安全確保ボランティア協力員”を募集しています。

現在すでに100名以上の地域の方々にご協力いただいていますので、その中から活動例を紹介します。

児童・生徒の下校時間に合わせて散歩をする。

買いものに出かけた際に通学路の危険箇所を確認する。

以上のように、日常生活の中で少しでも子どもたちのことに気を配っていただければ十分な活動になりますし、このような活動が地域に根付けば、地域全体の防犯意識の高まりが期待できます。

新たにボランティア協力員として登録を希望される方は下記に連絡願います。（ボランティア登録・保険加入後、タスキをお渡しします。）

地域の皆さまのご協力をお待ちしています。

（連絡先）阿蘇市教育委員会事務局 学務係

TEL 22 - 3229



第15回輝き大会 菊池・阿蘇 ブロック（知的障がい者スポーツ大会）参加者募集のお知らせ

パン食い競争やちびっこ徒競争など参加しやすいプログラムが準備されていますので、参加を希望される方は熊本菊陽学園にお申し込みください。

日時 6月7日（土）9時20分開会

場所 合志市総合体育館「ヴィーブル」

参加資格 療育手帳を所持している方（年齢及び障がいの程度は問いません）

申込先 熊本菊陽学園（大会事務局）

TEL 096 - 232 - 2080



木造大黒天半跏像
像高 36.5cm
楠一本造
鎌倉時代



金銅製誕生釈迦仏立像
像高 39.5cm
金銅製
鎌倉時代

さて、僧房には木造阿彌陀如来坐像・木造大黒天半跏像・金銅製誕生釈迦仏立像が安置されています。西方極楽浄土の教主である阿彌陀如来、寺院を守り豊穡を司る大黒天、釈迦が誕生した時の姿を表わした誕生仏と、仏像に統一性がないことから各旧坊舎に安置されていた仏像が僧房に寄せられた可能性も考えられます。



木造阿彌陀如来坐像
像高 45.8cm
桧寄木造
鎌倉末～南北朝時代